

第2部 社会教育委員研修会 講演

テーマ:「江戸の生涯学習～江戸っ子たちの文化的生活～」

■講師プロフィール

稲田 和浩 (いなだ かずひろ)



1960 年、東京都品川区生まれ。

1982 年、日本大学芸術学部演劇学科卒業。

1986 年頃より、作家活動。演芸(浪曲、講談、落語など)の脚本を中心に執筆。

1991 年、浪曲作品「浪花節いいさん」上演の「玉川福太郎独演会」が、文化庁芸術祭賞受賞。同年より「稲田和浩新作演芸コレクション」開催(現在は「稲田和浩の時間」として継続中)。

2004 年、日本脚本家連盟に入会(現在、著作権委員会演芸部副部長)。

メインの仕事は演芸の脚本と、邦楽(新内、長唄)などの作詞と、それに付随するイベントなどの企画、構成。現在は書籍執筆に軸足を置いている。

また 2014 年より、年数回、浅草 21 世紀の喜劇の脚本、演出も行っている。

その他、教養講座、大学などで講演、イベントの MC なども行っている。

著書に「落語に学ぶ大人の極意」(平凡社新書)、「男の落語評論」(彩流社)、「たのしい落語創作」(同)、「怪談論」(同)、「につぼん芸能史」(映人社)など。

他、演芸、演劇台本を多数執筆。

江戸の生涯学習

江戸っ子たちの文化的生活

●江戸時代はどんな時代だったか

1603年～1868年

徳川幕府が政権を担う、武家政権

政治を担うのは、徳川將軍家、大名、旗本による、武士たちのための官僚政治

人材登用の基本は、世襲。

政治の基本は、徳川家のため、武士のための政治。

スムーズな徴税。そのための治安の維持。

経済政策の基本は、緊縮財政、インフレを起こさないようにする。

例・享保の改革、寛政の改革、天保の改革

それでも、インフレは起こる。

武士は消費するだけ。武士のために存在した町人は、ものを作り、サービスを提供し、世の中を豊かにした。武士の模倣から、独自の文化を生み出した。

●江戸はどんな街だったか？

江戸城を中心に、大名、旗本屋敷があり、その間をぬって町人が住む。

江戸は増幅する街。

町人の専門化。神田竪大工町、白壁町、馬喰町のように、専門職の住む街が出来る。

北は本郷、南は田町、西は四谷、東は隅田川まで。それがさらに広がる。

吉原ははじめ人形町。1657年に浅草に移転。

開幕から 100 年、「赤穂事件」があった

俗に「忠臣蔵」と言われているが、歌舞伎の呼び方。

「仮名手本忠臣蔵」より、忠義の家臣の内蔵助から「忠臣蔵」。

●元禄文化 浄瑠璃—近松門左衛門、竹本義太夫

俳句 —松尾芭蕉

文学 —井原西鶴

歌舞伎—初代市川團十郎、初代坂田藤十郎

噺 —露の五郎兵衛、米沢彦八、鹿野武左衛門

● 赤穂事件

1702 元禄 15、12 月、赤穂の浪人 47 人が本所の吉良義央の屋敷を襲撃し、義央を殺害、家人二十数名を殺傷。

● 赤穂事件を題材とした芸能

事件の十二日後、「曙曾我夜討」→三日後には上演禁止

宝永三年(一七〇六)には近松門左衛門が事件を「太平記」の時代に置き換えた「兼好法師物見車」、正徳三年(一七一三)には紀海音「鬼鹿毛無佐志鑑」が小栗判官に置き換えて、などが上演されている。

寛延七年(一七四八)、竹本座で「仮名手本忠臣蔵」が上演される。全十一段からなる大作で、この作品をもって、赤穂事件の浄瑠璃、歌舞伎における定番作品となる。事件から四十七年目のことで、これも多分に宣伝効果となっている。

「仮名手本忠臣蔵」は、赤穂事件を「太平記」の世界に置き換え、吉良義央が高師直、浅野長矩が塩冶判官となり、また大石内蔵助が大星由良助など登場人物の名前を変えてある。しかし、「忠臣蔵」の意味は、忠義の家臣、内蔵助の略で、「太平記」の時代にしてはいるがホントは元禄赤穂事件の話であると観客にわかるようにしてある。

開幕から 200 年、江戸に文化の華が開く

江戸に富裕層が増える。

文学、歌舞伎、音曲、旅、食生活、いろんな文化が開花。

●歌舞伎

歌舞伎は富裕層の娯楽

歌舞伎の料金・桟敷席が約銀十七匁(8500 円) 文化の頃(一八〇〇年頃)

歌舞伎の興行 一日掛かりで通し狂言を上演

それでも一般の人にも歌舞伎は人気だった

歌舞伎人気の理由 印刷技術の進歩 錦絵、浮世絵、筋書き、評判記

歌舞伎や花魁のファッションを真似る

歌舞伎の革命

音楽や舞踊の様式の確立 天明の頃(一七八〇年代)

初世瀬川菊之丞、初世中村富十郎

並木正三 まわり舞台や迫(せり)などを考案

並木五瓶 生世話 写実的な作風 徹底的なリアリズムで、人間の深層までも描く

四世鶴屋南北 リアルを追求するあまり、過激さがより強調

怪異 勧善懲悪でなく悪が勝つ 人間の内面のドロドロした部分を強調

カッコイイだけでは満足しない

「天竺徳兵衛韓嘶」、天下転覆を企む天竺徳兵衛が蝦蟇の妖術で活躍するスペクタクル

「桜姫東文章」、衆道、転生、姫の転落……センセーショナルな展開、リアルな舞台設定

「東海道四谷怪談」、「仮名手本忠臣蔵」と表裏。濡れ場、殺し場、早替わり、宙乗り……

で描き出す、怪異と、悪の美学

三世尾上菊五郎、五世松本幸四郎、五世岩井半四郎

素人歌舞伎

歌舞伎が流行すると、素人の町人の中にも歌舞伎役者の真似をしてみたいという連中が現われる。

江戸後期になると富裕町人が増え、商家の広間などに舞台をこしらえて、仲間内で金を出し合って芝居の真似をはじめめる者も現われた。商家には年に数回、出入りの職人や商人、奉公人などを集めて、酒食をふるまい、商売繁盛を氏神に祈願する行事を行っているところが多かった。

● 音曲

なんで音曲が流行したのか

日本人は本来、歌の好きな民族。聞いているうちに、ふと口ずさむ。口から出れば、うまく歌いたくなる。少しくましく歌えたら他人に聞かせたい。うまく歌うためには、玄人の芸人に音曲を習う

若い職人や商人たちの目的は、「女性にモテたい」

女性にモテる条件は当時、「一見栄、二男、三金、四芸」

どんな音曲が流行したか

元禄の頃から、上方では義太夫が人気。それが江戸に下る

→素浄瑠璃が江戸で人気

宮古路豊後掾 豊後節を創始

享保一九年には江戸へ進出 播磨座、中村座などで出語りで人気

特長一柔らかな節調で扇情的 とくに悲しい場面でのウレイ節

元文元年(一七三六) 幕府も風紀を乱すとの理由で、豊後掾の自宅稽古を禁止した。翌年、豊後掾はやむなく江戸を去り京へ戻った。豊後節はその後も厳しく取り締まられ、元文四年には全面禁止となった。

豊後掾が京へ帰ってしまい、困ったのは江戸の豊後掾の弟子たち
常磐津(延享四年)、富元(寛延元年)、清元(文化一一年)

新内 もっとも豊後節の特徴を残して哀切の節を伝えた

鶴賀若狭掾座 歌舞伎と結ばず、敷浄瑠璃の道を歩む

心中事件を題材に、豊後節の特徴であるウレイを活かしたクドキで
端物(義太夫を元ネタにしない一話完結の物語)を題材にした

二世鶴賀新内 無類の美声、「鶴賀新内が語る節」であるから、「新内」

三味線を二丁用い、本調子と上調子で新内の特徴がより明瞭化

新内というと心中と結び着く。不倫、金、言われなき中傷、さまざまな理由で追い詰められた男女が死を選択する。それを哀切のクドキで聞かせるのが新内節の醍醐味。新内節の代表作「蘭蝶」がそれである。流しで「蘭蝶」のクドキを語るところが新内節のイメージになっている。

女浄瑠璃 女浄瑠璃の歴史は禁令との追いかっこ

最初の禁令は寛政六年(一七九四)。寄席などで夜間に浄瑠璃を語ることが禁じる女性が舞台に上るということは、たとえそこに売春行為がなくとも許してはおけない。世の中の風紀を乱す。女性が表立って活動することが封建社会においては好ましいことではなかった。

寛政から天保に掛けて、幕府と女浄瑠璃は、禁令が出る、ほとぼりが冷めた頃にまた舞台に出る、また禁令が出る、ほとぼりが冷めた頃に出る。こんなことを繰り返していた。

そして、天保一二年、町奉行の遠山景元は女浄瑠璃三十六人と寄席関係者七人を捕縛した。牢屋敷に百日間拘留。

女浄瑠璃が娘義太夫として開花するのは明治になってからである。

● 噺

落語の発生～寄席の起こりは富裕町人たちのサロン

噺の会

「向島武蔵屋にて、昔噺の会がござりやす」

市井のおもしろおかしい話を持ち寄って披露しあう噺の会 天明の頃(一七八〇年頃)

主催者は烏亭焉馬 参加者には、山東京伝、式亭三馬、太田南畝(蜀山人)ら

「落噺六儀」 おもしろおかしい噺を作るためのテキスト本

作るのがうまい者、話すのがうまい者、聞くだけの者に分かれてゆく。

はじめての寄席興行～初代三笑亭可楽

山生亭花楽(のちの初代三笑亭可楽)、下谷神社で五日間、お客さんから木戸銭をとって噺を演じた。 寛政一〇年(一七九八)

文化元年(一八〇四)、下谷孔雀茶屋で三題噺 可楽が職業落語家の第一号

化政期になると、噺の寄席は一気に開花

朝寝坊むらく(夢楽久) 可楽門下で、頓才よりも人情噺に実力を発揮し、人情続き噺の祖

林屋正蔵は「東海道四谷怪談」の影響を受け、怪談噺を得意。一道具入り怪談噺の祖

三遊亭圓生は鳴り物入り芝居掛かりの祖で、三遊派の流祖

三笑亭可上は百眼の祖

うつしゑ都楽は写し絵

翁家さん馬はのちの二代目可楽

船遊亭扇橋は元常磐津演奏家で音曲噺の祖。柳連の祖

他に、猩々亭左楽、佐川東幸、石井宗叔をもって可楽十哲。

天保の頃には噺家の数が二百名を越えた。寄席の数も、文化一二年には七十五軒、文政八年には百二十五軒、まさに町内に一軒あった時代である。

寄席の木戸銭 例一幕末のある寄席 48 文

江戸時代の教育とは

識字率 ほぼ 100%

寺子屋の充実

下野する知識人たち

読み書き算盤 素読の指南、複雑な経済環境、応用力がなければ生きられない

● 何故、学習するのか？

1, 出世のため 世襲社会でも出世する方法がないわけではなかった

2, 生活してゆくため 読み書きは必須、

趣味を仕事に活かす 習い事→バイト→仕事

例・安藤広重

独身女性の生活術 音曲、裁縫、文学など

3, 学問に人生を懸ける 例・伊能忠敬

4, 文化的な生活を求めて

5. その他

● 寄席が学びの場

落語や講談を通じて、常識や生き方を身につける

「子ほめ」

「牛ほめ」一牛のほめ方「天角地眼一黒鹿頭耳小齒違う」

「佃祭」「胡椒のくやみ」一くやみの口上

四業

神道講釈

心学

軍書講釈

昔噺

馬場文耕 実際の事件を講談で語り捕縛、死罪になった

＋参考資料＋江戸年表

- 1603 慶長 8 徳川家康が江戸に幕府を開く
- 1609 慶長 14 薩摩藩が琉球征伐、琉球を支配下とする
- 1612 慶長 17 禁教令、全国的にキリスト教を禁じる
- 1615 元和 1 大坂夏の陣 豊臣氏滅亡する
- 1623 元和 9 徳川家光、三代将軍となり、幕藩体制が確立する
- 1629 寛永 6 遊女歌舞伎の禁止
- 1637 寛永 14 島原の乱
- 1638 寛永 16 ポルトガル人の来航を禁じ、鎖国がはじまる
- 1651 慶安 4 慶安の変、由井正雪らの反乱未遂事件
- 1652 承応 1 若衆歌舞伎の禁止
- 1654 承応 3 玉川上水が完成
- 1657 明暦 3 明暦の大火、死者 10 万人を出し、江戸城天守閣も焼け落ちる
- 1669 寛文 9 シャクシャインの乱、アイヌ民族の反乱
- 1673 延宝 1 初代市川團十郎が歌舞伎を演じ人気を博す
- 1674 延宝 2 関孝和「発微算法」
- 1677 延宝 7 菱川師宣、浮世絵をはじめ
- 1678 延宝 6 上方で初代坂田藤十郎の歌舞伎が人気
- 1682 天和 2 井原西鶴「好色一代男」
- 1684 貞享 1 竹本義太夫、大坂で竹本座を開く 渋川春海、貞享暦を作る
この頃、京で露の五郎兵衛、大坂で米沢彦八、江戸で鹿野武左衛門が、
辻噺をはじめ
- 1687 貞享 4 生類憐れみの令
- 1694 元禄 7 松尾芭蕉「奥の細道」
- 1702 元禄 15 赤穂浪士の討ち入り
- 1703 元禄 16 近松門左衛門「曽根崎心中」上演
- 1706 宝永 3 近松門左衛門「碁盤太平記」上演、赤穂事件を題材にした芝居
- 1708 宝永 5 イタリア人のシドッチが来日 スイフトの「ガリバー旅行記」ではガリバー
も来日している
- 1709 宝永 6 新井白石らによる正徳の治 白石、シドッチを尋問し「西洋紀聞」
- 1713 正徳 3 貝原益軒「養生訓」 女装の禁止
- 1714 正徳 4 絵島生島事件
- 1715 正徳 5 近松門左衛門「国姓爺合戦」上演。翌年、歌舞伎でも上演される
- 1716 享保 1 徳川吉宗が八代将軍となり、享保の改革。大岡忠相を登用
- 1723 享保 8 心中を扱った作品の出版、上演が禁止される
- 1734 享保 19 宮古路豊後掾が江戸に進出、豊後節がおおいに流行る

- 1739 元文 4 豊後節が禁止される
- 1747 延享 4 常磐津文字太夫が常磐津節を創始
- 1748 寛延 1 「仮名手本忠臣蔵」上演
- 1759 宝暦 8 講談師、馬場文耕が捕縛され処刑
- 1763 宝暦 13 平賀源内「風流志道軒伝」 この頃、鶴賀新内の新内節が人気となる
- 1765 明和 2 鈴木春信が錦絵を創始
- 1766 明和 4 田沼意次が政治を主導、インフレ政策を行う
- 1767 明和 5 上田秋成「雨月物語」 円山応挙が活躍
- 1787 天明 7 松平定信が老中となり、寛政の改革
- 1794 寛政 6 夜間の浄瑠璃を禁止
- 1798 寛政 10 初代三笑亭可楽が下谷神社で落とし噺を口演
- 1802 享和 2 十返舎一九「東海道中膝栗毛」
- 1808 文化 5 間宮林蔵、樺太探検
- 1814 文化 11 曲亭馬琴「南総里見八犬伝」 清元延寿太夫が清元節を創始
- 1821 文政 4 伊能忠敬、日本地図を作る
- 1825 文政 8 鶴屋南北「東海道四谷怪談」上演
- 1828 文政 11 シーボルト事件
- 1829 文政 12 柳亭種彦「修紫田舎源氏」 葛飾北斎「富嶽三十六景」
- 1832 天保 3 鼠小僧次郎吉が処刑される
- 1833 天保 4 歌川広重「東海道五十三次」
- 1837 天保 8 大塩平八郎の乱
- 1839 天保 10 蛭社の獄、渡辺華山、高野長英ら捕縛
- 1841 天保 11 天保の改革
- 1841 天保 12 遠山景元が女浄瑠璃を一斉捕縛
- 1853 嘉永 6 ペリー浦賀来航
- 1858 安政 5 安政の大獄、吉田松陰、橋本左内ら捕縛されて処刑
- 1860 万延 1 桜田門外の変、井伊直弼暗殺
- 1861 文久 1 和宮の降嫁
- 1862 文久 2 生麦事件、薩摩藩士がイギリス人を斬る
- 1863 文久 3 薩英戦争 8月18日の変、三条実美らが長州へ落ちる
- 1864 元治 1 蛤御門の変、長州が上洛を試み失敗、久坂玄瑞が敗死
英仏米蘭の下関攻撃 第一次長州征伐
- 1865 慶応 1 第二次長州征伐
- 1866 慶応 2 薩長連合の密約、坂本龍馬が薩摩と長州を結ぶ
- 1867 慶応 3 大政奉還

落語は平和呆けの象徴

落語のような芸能は何故誕生したのか。それは、江戸幕府が開かれ、以降、平和な時代が続いたからである。開幕から可楽登場までの約二百年、江戸は平和だった。大坂の陣、島原の乱など戦さがなかったわけではない。でもそれは、上方や九州や蝦夷地といったはるか遠い話である。富士山爆発や元禄の大地震などの災害も遭った。それらは天災だから仕方がない。

とにかく江戸っ子たちは徳川の威光の元、江戸の街で幸福にのん気に暮らしていた。江戸っ子のステータスは米の飯を食うことだ。食い過ぎて脚気になる者もいたくらい、江戸っ子は白い飯が大好きだった。地方では重い年貢に苦しみ、自分の作った米すら口に入らない百姓が大勢いるのに、江戸っ子たちはのん気に飯を食っていた。

平和だから飯が食えて、仕事があるから金まわりがよくなり、芸能や文学や絵画など文化的な日々を送ることが出来る。その象徴がまさに、バカな話を聞いてゲラゲラ笑うなどという落語の原典の嚆矢なのである。

二百年の平和があつてこそ生まれた、まさに落語は奇跡の産物でもある。

世界のどこにも落語のような芸能はない。講談のような語り芸や、喜劇や、寸劇のコントはあるが、一人の人間がただおもしろい話をして、大勢で聞いてゲラゲラ笑うだけの芸能はどこにもないのである。それは世界のどこの国も二百年も平和が続いたなんていうことがないからだ。まさに落語は平和呆けの貴重な産物なのである。